

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 19 章 1～10 節 ＞

1 直前の個所の盲人とザアカイの比較から見えて来ることは？

徴税人ザアカイの話はルカ福音書だけに載っています。なぜルカがこれを入れたのかを考えると、直前(18:35-43)の話(盲人の目の癒し)との関係(共通点と違い)が気になります。

2 盲人は彼の信仰が先行。一方、ザアカイは主の呼びかけが先行。

直前の個所の盲人はイエス様が神様の約束の救い主だと強く信じていました。一方、ザアカイもイエス様への関心は強いものの、盲人ほどではありませんし、関心の内容も違いました(3a)。しかし、イエス様はザアカイの目をも開かれ、「イエス様こそが神様からの約束の救い主であり、全てを委ねて従って行っていいお方だ」と確信させられたのです。なぜそれは起こったのでしょうか？

3 同じ徴税人マタイの場合にも起こったこと。それは何か？

ザアカイの心が動いたのは、イエス様が「あなたの家に泊まる」と突然呼びかけられたからです。実は、これは同じ徴税人マタイに起こったこととよく似ています(マタイ 9:9「わたしに従いなさい」)。二人はイエス様に出会った時に考えられないことに出会ったのです。「自分の様な者を傍に置くと、今度はその人が白い目で見られる。だからそんなことをする人はいない。なのに、イエス様はそうするとおっしゃられ、そしてなされた！」。彼らはどちらもそのことに驚いたのです。

4 ザアカイの決意表明は、この恵みに本当に驚き感謝したしるし。

8 節以下にはザアカイがした決意表明が記されていますが、強いられて「正しいことをします」と言っているのではなく、心の底から嬉しくてこう言ったのです。ここから教えられることが幾つかあります。

①主にお委ねできる恵み：お金を神とすることから解き放たれた。

②それが生み出す自由さ：解き放たれ、生きる選択肢が増える。

③それが生み出す他者への思いやり：人それぞれ違う仕方。ザアカイの場合は経済的な仕方。④それが生み出す謙虚さ：自分を誇れないことを知り、また誇らなくていいことを知る時に謙虚になれる。

また、主イエスはこれを聞いて初めて「救いがこの家を訪れた」と言われました。ここでの「救い」とは、「神様から離れて迷子になっていた羊が神様の下に帰って来た」(15:1-7)ことを意味しています。私たちも今、このような神様の御手の中に戻って置かれているのです！